

第21回ベンチャービジネスコンテスト最終審査結果

	賞金	代表者名	学部	人数	事業名	事業内容
						①誰が、何を、どのように、提供するビジネスか？ ②あなたがこのビジネスで果たす役割 ③収益を得る方法
最優秀賞	30万円	林 宏祐	医学系研究科	4	「医師と患者をつないで病気を治す」DXサービス	①慢性心不全を対象に、医療現場には最適な投薬内容を医師と患者に提示するDXツールを、創薬の現場には研究開発に資する匿名化された臨床データを、それぞれ提供する。 ②DX サービスを通じて医療現場を進化させる。 ③患者・医療者のDX サービス利用は無料とし、自治体からのDXサービス利用料と企業からのデータ利用料により収益を得る。
優秀賞	15万円	和田貫汰	理工学部 創生工学科	1	ハウスインハウス	①弊社は、既存の建物の中に新たな“ハウス ボックス”を組み立て増築するハウスインハウス事業を展開する。 ②廃れた商店街空き店舗、放置された倉庫、空き家などの建物内に“ハウスボックス”を購入者自身で組み立てることで、誰でも簡単に新たな空間を作ることができる。 ③弊社はこの“ハウス ボックス”を1つ単位で販売し、全国への発送を行うことで収益化を図る。
振興会特別賞	10万円	堀内梨絵	大学院 工学研究科	1	地域猫活性化事業 (殺処分0への貢献)	猫を愛する人に猫との時間を提供するアプリ 大分県は殺処分頭数第3位です。一匹でも多くの猫の命を助けたいです。様々なボランティアが地域の猫として猫を育て見守っていますが、 昨年度の猫の殺処分数は1088匹です。まずは地域猫と言う考え方を知ってもらい、猫との共存を図ることが大事かと思えます。 ①全国の地域猫にタグをつけ地域猫図鑑の作成。多くの人に地域猫を知ってもらい支援できるアプリ。グループ内での管理アプリ。 ②地域猫に猫目線カメラをつけ、ねこの目線で物事を考え支援につなげる。また猫好きな人のためのコンテンツとしての利用 ③猫型ロボットアバターを開発し、全国のどこからでも地域猫の集まる場所に自身が猫として存在し、猫との時間を共有する。 収益はアプリのコンテンツ利用料で得る。
奨励賞	1万円	木原悠佳	大学院 工学研究科	1	ポータブルヨーグルトメーカー	①牛乳が余ってしまう人、朝ご飯を用意する時間が無い人などに向けてヨーグルトメーカーを販売する。前日の夜に今回開発したヨーグルトメーカーに牛乳とヨーグルトの種菌を入れると、朝に一人分の冷たいヨーグルトができあがり、そのまま外出先に持ち運ぶことができる。 ②生乳が余っていることに対して、牛乳の購入を促すことで解決の一助になることを目指す。 ③ヨーグルトメーカーの販売、種菌と牛乳のサブスクリプション
奨励賞	1万円	林 修多	理工学部 共創理工学科	2	ワンタッチ設置型自転車スタンド	①自転車ユーザーへ、より簡便化された自転車スタンドを自転車メーカー、ネット、自転車販売店を通じて販売する。 ②自転車の収納をより倒れにくくコンパクトに行えるようにし利便性が高く環境への負荷の少ない自転車を使ってもらえるようにする。 ③他社の安価な製品に対抗するため素材にはアルミニウム合金を用いる。初期はクラウドファンディングを用いて資金を募る。
奨励賞	1万円	坂井彩乃	教育学部	1	地域との交流を通じた子どもや若者の居場所づくり	①人や物、実社会に触れる「直接体験」の機会が乏しく、自己表現力や自己肯定感が低い子どもに対して、思い切り自分を表現できる場を創ることによって、心が揺れ動くような体験活動を提供するビジネスです。 ②家庭教育の負担軽減や地域の魅力化の役割があります。 ③サービス利用料やイベントで収益を得る予定です。